

FORUM

レポートの紹介

【組合活動のアップデート】
「組合を活かす経営」に必要なアクションとは？！

Point

1

イベント内容の要約

現役・OB組合役員をパネリストにお招きして、「スタジオ見学風パネルディスカッション」を実施しました。パネリストは、6名様（うち1名様は動画でのご参加（事前撮影））、参加者は120名を超える組合役員の皆様にお申込みいただく企画でした。全体を3つのコーナー（①「ずばり一言で言ってみよう！」②「お便り紹介」③「座談会」）にわけ、各コーナーでトークテーマを設定し、パネリスト間でのディスカッション、参加者からのチャットを通じた質問への回答など、双方向でのディスカッションを実施しました。全体を通じ、労働組合の更なる価値向上のために、今後の労使関係を活性化させるために必要な視点、活動とは何なのか。雇用を守り、処遇を改善し、働く価値を高めるためにも「労使関係とはどうあるべきなのか」また、「その先にある組合員の幸せを実現」するために、必要な活動とは何なのかを語り合いました。

Point

2

今回のイベント企画の背景や目的は？

with/afterコロナへの対応、グローバル化への加速など、社会情勢が目まぐるしく変化していく中で、企業として、より付加価値をもったサービスの提供が市場に求められてきています。労働組合は、それらに対する変化への適応、労働組合の更なる価値向上のために、今後の労使関係を活性化させることは、必要不可欠だと考えます。雇用を守り、処遇を改善し、働く価値を高めるためにも「労使関係とはどうあるべきなのか」また、その先にある組合員の幸せを実現するために、必要な活動とは何なのかを6名のパネリスト（1名様は事前に動画を撮影しご参加）の皆様と語り合い、手がかりを見つけるために企画しました。



Point

3

開催してみて参加者の反応や、意見、創発の内容

「お便りコーナー」では複数の質問があり、座談会コーナーでは、チャットで質問の投稿もあり参加者の皆様に積極的にご参加いただき、場も活性化いたしました。120名を超えるお申込みをいただき、経営対策活動への課題感や、興味の高さが伺えました。アンケートでは、「自分と立場に近いパネリストの皆さんの意見やお話は、刺さるキーワードがたくさんあり、是非参考にさせていただきたい」「今年の活動の中で、これまで感じていた情勢変化に対する疑問や意見が他組織でも同じような感覚になっていることに改めて気づくことができ、少し安心したとともに、今回伺ったことをヒントにして自組織のアップデートを図っていきたい」「今後どのように活動して組合員を巻き込んでいくのか？という良いヒントを沢山得られた」と評価をいただきました。外部環境に変化があらうと、本質的な労使関係に変化は起きていない。「いかに現場のことをつぶさに知っている」、会社（経営層）が現場（職場）のことを知りたいときに、管理職や人事部とかではなくまず最初に「組合に聞いてみよう！」という状態にするために、これまでも大切にしてきた、日常の職場での活動の活性化が最も重要だという議論がなされていました。



Point

4

アップデートしていくためには どんなことが必要？

パネリストのディスカッションを通じて、「正解主義」や「べき論」ではなく、社会情勢が目まぐるしく変化していく中で、状況に合わせながら、自組織（自身）の知識（知恵）、技術、経験のすべてを組み合わせることで最適解を見出す必要や、外部環境の変化にあわせ、webを取り入れた活動など「手段・手法」を変える必要があると感じました。しかし、労使関係や職場での組合活動の本質はかわってなく、これまで大切にしてきた「職場に根差した活動」（三現主義）の強化が何よりも大切で、その基盤がないと「職場に根差した活動」がしっかりしていなければ、変化への適応も難しく、活動自体の「アップデート」もできないという意見が寄せられました。また、多様化する組合員の価値観への対応、組合員の幸せを実現するためにも、いかに「職場に根差した活動」（三現主義）、つまり、組合員一人一人の接点強化が必要だということがわかりました。組合員の関心がどこにあり、その関心を引き出すコミュニケーション強化や、組合員の身近にある困りごとに対し、どのように対応していくかがカギとなりそうです。